いなほ

稲積神社社報
第43号

平成27年　大祭号

～そろばん塚～

時折、そろばん検定試験合格のために「そろばん絵馬」を受けていく子供がお参りをしていく『そろばん塚』は全国的にも珍しいようだ。

昭和十九年十一月全国一斉に行われた商工会議所珠算能力検定試験が昭和五十五年十月二十六日施行をもって第百回を迎えた。

日本珠算連盟山梨支部と甲府商工会議所が、先人の遺徳をしのび、将来も珠算教育が発展するようにとの祈願を込めて昭和五十六年三月十一日に建立された。

今でも日本珠算連盟山梨支部と甲府商工会議所が、技能向上・斯界発展のために「そろばん絵馬」を奉納される。

IT時代で簡単に計算機で答えの出る時代ではあるが、実際に手や頭を使い答えを導き出す「読み書きそろばん」が計算道具から教育道具として見直されているらしい。私も昔取った杵柄で再チャレンジしてみるか。

（稲積神社　権禰宜）

神様とのご縁

宮司　根津泰昇

人々が生活を営んでいると、よく潔斎する禊すると言います。これは生活を営むにつけ、意に反した言動をした罪として表現する言葉であり、反省する言葉として用いています。

神様は七十億の世界人類に平等に一日二十四時間の時を与えています。この時間を平均するならば三等分に分け、八時間は仕事に従事し、八時間は家族、友人と時を楽しみ、残りの八時間は睡眠を取ります。

人は日常生活のなかで完璧な言動で生活を営む事は不可能です。だからこそ体を原点に戻す睡眠が必要になります。睡眠は体を休める事は勿論ですが、再出発するエネルギーを生み出しているのです。だから「神様」が私達に与えて下さったのが潔斎であり、禊であり清めなのです。

「神様」が平等に与えて下さった二十四時間を大切に使うことが神様への恩返しです。

神社の境内は毎日清掃されて清められています。ただ綺麗にする事だけで無く「神様」が鎮座する境内ですので、全てを清める作法が清掃なのです。

境内に存在する建造物、樹木、石、水、玉砂利に至るまで神様の御力が宿っております。だから玉砂利の小さな、小さな石まで大事にしているのです。

さて、本年は当神社外郭団体の稲積睦会が、神様のご縁を頂き発足三十年の佳節を迎えました。永年に渡り正の木祭り神輿渡御にご尽力賜ったことに感謝申し上げます。

長潟会長より記念事業として何かご奉仕したいとの申し出がありました。神社といたしましては、初代宮司興石守郷翁の歌碑を整備しなくてはと気にかけていた矢先でしたのでその整備をお願い致しました。

歌碑には

うきをのみ数えて
何か嘆くらむ
楽しと思えば楽しかる世を

(悲しみや寂しさばかり数えて嘆いて何になるというのか。楽しいと思いましょうよ。楽しい人生なのだから)

という辞世の歌です。

大正四年に建立された歌碑です。百年を迎えた本年、正に初代宮司興石守郷翁のご縁で、稲積睦会発足三十年記念事業として整備事業奉仕の機会を与えられたことは、大神様が睦会を見守り続けてきたご縁ではないでしょうか。

興石守郷翁は天保八年二月に、北巨摩郡の山本家に生まれ、国学を学び、明治八年に浅間神社主典に、明治十九年に稲積神社神官となり。明治三十三年に伊藤学園（現甲斐清和高校）の初代校長を務めました。

「ご縁」は、自身が生み出すものであります。生み出すには、常に心身が清められていなければなりません。神に手を合わせ、目に見えないものを尊ぶ心を養うことが大切です。

お家でも神棚を設け、伊勢神宮の御札、氏神様、稲積神社の御札をお祀りする事により家にも神が宿り、安定した生活を営む事が出来るのです。

「神様」を身近に感ずる生活を営み、生気興隆の日々をお過ごし下さい。

正ノ木例大祭式次第

定刻　手水の儀　参進
次　修祓の儀
次　宮司一拝
次　宮司御扉を開く
次　神饌を供す
次　宮司祝詞を奏す
次　献歌
次　玉串拝礼
次　撤饌
次　宮司遷御の祝詞を奏す
次　遷御
次　宮司発御の祝詞を奏す
次　宮司一拝
次　発御

平成二十七年度 正ノ木例大祭神賑行事（予定）

五月一日(金)
・甲府商工会議所主催
　献木祭　午前十時
二日(土)
・前夜祭　午後六時
・飯野のり子歌謡ショー
　午後七時～九時
三日(日)
・例大祭　午前十時～
・神輿渡御　午前十一時～午後四時
　宮神輿　子供神輿
　町内神輿
　甲府商工会議所山車渡御
・奉納相撲大会　午前十一時～午後三時
・バザー・さるまわし等
　正午～
・カラオケ大会　午後六時～八時
四日（月・祝）
・二之祭　午前九時～
・平元会　三味線演奏
　午前十一時～
・ご当地アイドル
　「FUJI SAKURA塾」等
五日（火・祝）
・三之祭　午前九時～
・童謡　ちゃんこの会
　午前十一時～
・ご当地アイドル
　「FUJI SAKURA塾」等
・成就祭　午後五時～

正ノ木祭を迎えるにあたり

稲積神社総代　塩島好博

お正月が待ち遠しい子供の心情を歌った「お正月」という童謡があるが、私が子供のころのここ太田町では「もーいーくつ寝ると正の木さん。」であった様な気がする。三月も末ともなると、太田町東部の男衆がお囃子練習を社殿で始める。「もう寝なさい。」と母にしかられても、「ピーヒャラピーヒャラ。」神社の方から聴こえて来るものだから、寝れたものではなかった。四月も半ば過ぎるころになると、植木が公園に並び始める。「もうすぐ正の木さんだ。」ワクワクした事を思い出す。

江戸、明治、大正、昭和、平成とごく自然にごく当たり前にこの祭りは継承されて来た。とのんきに考えていた私であった。しかし総代にならせていただき、深くこの祭りに関わらせてもらって初めて、如何に神社関係者が、崇敬者が、地域住民が、行政など多くの人の協力によって、成り立ってきたか、続いて来たかという事を教えられた。数年前も暴力団問題が社会問題化し、全国の祭りから的屋が締め出されると言う事があった。的屋がたくさん出店するという事で有名だった正の木祭りも例外ではなく、的屋が締め出されてしまった。その年は本当に祭りがさみしかった。しかし関係者の努力、協力で、また昔のにぎやかさをとりもどしつつあるのは本当にありがたい事と思う。

今日は平成二十七年四月一日。七十年前の今日、米軍が沖縄に上陸して来た日と聞く。その昭和二十年にこの祭りが開催されたかどうかは私の知る所ではないが、平和であるからこそ、この祭りが無事にとり行われるのである。今年の祭りも一般の出店者にお願いして、露店が立ち並ぶ事と思う。神輿も稲積睦の先導のもと、たくさんの神輿会の協力で荘厳なお神輿かつぎが見れる事だろう。にぎやかな祭りになりそうだ。「ピーヒャラピーヒャラ、ドンドン、ワッショイ、ワッショイ」聞こえて来たぞ。

正の木祭りを迎えて

正の木祭り実行委員長　藤本浩

田んぼにれんげの花が咲き、さくらの便りがおわる頃、正ノ木さんがやって来る、キラキラかがやく日をうけて、お花がいっぱいならんでる。

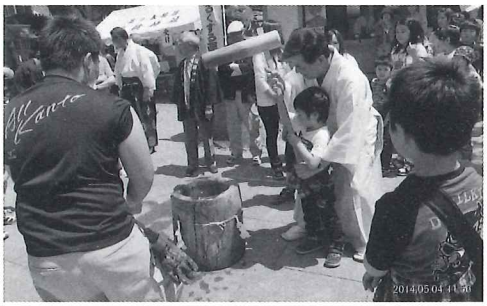
これは稲積神社「正ノ木さんの歌」一番の歌詞であります。実になごやかで、ほっとする雰囲気がして、お祭りを楽しみにしている情景が伝わってくる歌だと思っております。

さて、今年も正ノ木祭りを迎えることとなりました。五月二日前夜祭、三日例大祭、神輿渡御、四日二之祭、五日三之祭、成就祭と四日間にわたる祭典で、全国的にみてもあまり例のない祭典であり、県内はもとより近県からも多くの人達が訪れるお祭りであります。

祭典といえば各種催し物、露店等屋台が中心になるのですが、特に正の木祭りといえば植木等が多く出店され、それを楽しみにくるお客さんが多かったのですが、時代の流れというか近年めっきり少なくなってしまいちょっと残念な気がします。

二月十日に、「甲府盆地に春を呼ぶ」と言われている南アルプス市若草町の十日市の祭典にいってきました。約一キロの沿道と広場に約二百七十店の屋台が出店し、天候にも恵まれ大いに賑わっていました。

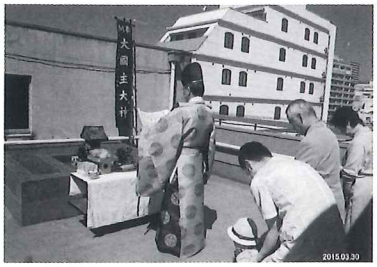
正の木祭りにおいても二百店以上の屋台を出店させる予定でおります。実行委員会としましても稲積神社とその外郭団体、太田町を中心とした地域住民、甲府商工会議所をはじめとした各種機関、団体等の協力をいただきながら各種イベント等を開催し、多くの人々がつどえる正の木祭りにしたいと思っております。



我が家の邸内社

治作鮨　山田栄一

戦後、先代が家内安全と商売繁盛を願って崇敬していた稲積神社にお願いして、毎月神棚の御祓いをしてもらっていた事が始まりでした。その後、店の新築に伴ないその庭の隅に邸内社を建立いたしました。今から六十二年前の事です。その頃は土台も石を積んだ頑丈なものでしたが、昭和四十六年に現在の三階建のビルに建て替えた時、その社の上の部分を屋上に持っていって奉ったのが現在に至っております。最初に社を作った時、稲積神社の先代宮司根津成雄様がわざわざ出雲大社に出向いて、その御霊を持ち帰り奉っていただいたという大変有難い社です。その時作ったのぼり旗には「奉納　大国主大神　昭和二十八年三月十四日」と記されております。今でも毎年三月から四月にかけての吉日に稲積神社にお願いして、お祭りをしています。現在も宮司様にお聞きした話でも、甲府で出雲大社をお祭りしている所は非常に珍しいとの事で、これからも大切にお祭りをしていきたいと思っております。



余談になりますが、先代の宮司様が我が家に毎月来られ始めた頃、宮司様もその先代から引き継がれたばかりで私の父が強面であった事もあり、いつも非常に緊張して我が家に来ていたという話を大分後になって聞き、いつの時代も、誰も、代替りの時はそういうものかと改めて感じたものでした。

現在は両親の没後二十数年経ちますが、これからも家内安全・商売繁盛を願って年に一度ではありますが、稲積神社にお願いしてこの祭りを末長く続けていきたいと思っています。

二代目 山田栄一様、三代目 幸司様、四代目 新太君

全国女子神職協議会「関東地区研修会」当県に於て開催

権禰宜　土肥東宮

三月十七日、女子神職協議会関東地区研修会の当番県として東京・神奈川・埼玉・群馬・栃木県の女子神職の皆様を当県女子神職会会員二十四名の内十七名にてお迎えいたしました。

前日に吉田入りし、夜の雨模様に不安を残しつつ目覚めると窓の外の景色は一面霧が掛かり、晴れるに違いないと確信しました。数時間経過すると、想像以上の太陽の光に富士山が輝きを増していきました。

ハイランドリゾートホテルで受付を済ませ、マイクロバスで北口本宮冨士浅間神社へ向い、正式参拝、御社殿にて上文司厚宮司様より「北口本宮冨士浅間神社と御師」のお話を頂き、写真撮影した後ハイランドリゾートホテルへと会場を移しました。

当日は、ご来賓として小佐野正史山梨県神社庁副庁長様、渡邊主計南都留支部長様、上文司厚北口本宮冨士浅間神社宮司様、田部裕子全国女子神職協議会副会長様にご臨席賜り、開会式。引き続き山梨英和大学教授石田千尋先生の『古典文学と彫刻・絵画から読み解く富士山信仰』と題する講演を拝聴しました。富士塚は関東周辺の神社に存在し、富士山を聖なるものとしたこと。富士山の御神霊は女性的とみられ、時に優しく時に厳しい母性であるとのご講演は学問的ながら、先生の優しくたおやかなお人柄と巧みな話術に感嘆しました。続いての閉会式で次年度当番県の中村紀美子神奈川県女子神職会会長様が挨拶され、女子神職会の歌を斉唱して閉会いたしました。

短い時間内の研修ですが、五十三名の女性同士、そして神職資格を有する者同士が集まっての研修は学ぶ事が多く、これからの神社奉仕に有意義な時間でした。

当初は富士山麓での開催に雪の心配もありましたが、三月に二十度と思いもよらない気温で、太陽に照らされた富士山に包まれ安堵しました。また、一年間会員が何度も話し合いを重ねた今回の研修会を終え、山梨県会員同士の絆を深めた事は大きな収穫でした。

雄大な霊峰富士と日の丸を目の前に、女性であることの自覚と優しさ思いやりを忘れず、先人の努力や思いを大切に引き継いでいきたいと思った研修会でした。

今回の研修会に向けて、ご指導ご協力を賜りました諸先生方に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

恵方参り

丸山邦子

立春を過ぎたものの春まだ浅き二月十五、十六日、第十一回稲積神社恵方参りの旅に参加させていただきました。

参加者九十名は一路甲府から見て西南西に位置する奈良へと向かいました。諏訪湖サービスエリアあたりから小雪の舞う空模様、飯田から恵那山トンネルまで思いがけない雪景色のサプライズ、幻想的でした。

私は高校の修学旅行以来の奈良でしたので、いやが上にも期待が高まっていました。

第六十回式年造替特別公開の春日大社で正式参拝をしました。御蓋山を背景に千古の緑（青）に朱（丹）塗りの柱、樹齢一〇〇〇年の大杉が誠に印象的でした。

「青丹よし　奈良の都の八重桜……」万葉の風景をかいま見た気分です。

春日大社の余韻さめやらぬまま東大寺の大仏殿に詣でました。大仏様のやさしいお顔が世を照らしておられるかのようです。参道には大仏様に見守られて鹿と戯れる修学旅行生の姿が目立ち、穏やかな日本の古都の光景です。

その夜の宿は奈良パークホテル。敬宮愛子様が宿泊されたことのあるお部屋に泊まられた幸運な方はどなたでしょうか。

翌十六日、大和一の宮大神（おおみわ）神社を参拝、拝殿を通して三輪山にお祀りされた国造り、医薬、酒造りの神様を拝しました。高さ三十二米の巨大な大鳥居も見事なものでした。

最後になった法隆寺は、広大な境内のどこから見学したらよいやら大変迷いましたが西院の飛鳥時代の宝物、金銅釈迦三尊像、夢違観音像、百済観音像、玉虫厨子などを拝し、「柿食へば……」の石碑、東院の夢殿まで、かけ足での見学となりましたが、一泊二日の日程を余すことなく使い切り、充実の一語に尽きる恵方参りの旅でした。

ちなみに土産は奈良漬け、くず餅が人気だったようです。

今回の旅行を計画してくださった宮司様をはじめ神社関係者の皆様に心から感謝申し上げ報告とさせていただきます。ありがとうございました。

～慰霊顕彰を次世代へ～

山梨県神道青年会創立六十五周年実行委員長
権禰宜　根津佳明

私が所属している「山梨県神道青年会」は平成二十七年度に創立六十五周年を迎え、その周年事業として様々な事業を展開しております。その一環として、去る平成二十七年二月十八日～二十日、沖縄県にて「沖縄甲斐の塔慰霊祭」を会員十三名の参加の下斎行してまいりました。

この甲斐の塔は大東亜戦争において沖縄また南方諸地域で散華された山梨県出身者の御霊をお祀りしています。その御霊に感謝と哀悼の意を捧げ、慰霊顕彰を次世代へ継承していくために五年に一度行っています。

そして此の度は甲斐の塔慰霊祭の後、波照間島へと渡り、「学童慰霊碑」の前で参加者一同黙祷を捧げ、その後日本最南端に建立されている「聖寿奉祝の碑」を視察及び清掃を行い、聖寿万歳を捧げてきました。

今年は「終戦七十年」の節目の年でもあります。崇敬会でも靖国神社参拝研修を計画しております。皆様にも慰霊顕彰の念を抱いていただき、今の時代に生かされている思いを先祖への感謝の気持ちとして伝えていただきたくお願い申し上げ納めとさせていただきます。

南甲府交通安全協会
新年祈願祭斎行される

事務局長　野口賢次

南甲府交通安全協会（会長池川春男）では、一月九日、稲積神社において、南甲府警察署長、南甲府警察署管内交通関係団体長及び役員、総勢九十名が出席し、盛大に「平成二十七年交通安全祈願祭」を根津泰昇宮司様のお導きにより斎行されました。

この交通安全祈願祭は、例年一月に南甲府警察署と南甲府交通安全協会、南甲府警察署管内交通関係団体との合同により、南甲府警察署管内の交通事故防止と交通安全を祈願して行っております。

ところで、南甲府警察署管内の昨年中の交通事故発生状況は、発生件数一、〇六七件、死者数五名、負傷者数一、四〇六名であり、発生件数や負傷者数は減少しましたが、残念ながら死者数は、五名と前年より三名増加しました。

五件の死亡事故を分析しますと道路横断中の歩行者の事故が二件、自転車で道路横断中の事故が一件となっております。

このため、平成二十七年も引き続き、南甲府警察署と南甲府警察署管内交通関係団体が協力して、南甲府警察署管内から交通事故を減少させるため、地域住民に対する広報啓発活動や街頭監視活動を活発に行うとともに、子供と高齢者に対する交通安全教育活動を積極的に推進して参りたいと考えております。

地域住民の皆様におかれましても、交通事故を起こさない、交通事故に遭わないために「正しい交通ルールとマナー」を守り、安全で安心して住みよい街（社会）作りにご協力をお願いしたいと思います。

安産祈願の由来

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

平成27年　戌（いぬ）の日カレンダー

5月	10(日)・22(金)	9月	7(月)・19(土)
6月	3(水)・15(月)・27(土)	10月	1(木)・13(火)・25(日)
7月	9(木)・21(火)	11月	6(金)・18(水)・30(月)
8月	2(日)・14(金)・26(水)	12月	12(土)・24(木)

平成二十七年厄年表（数え年）
星除祈願

男の厄年（大厄は四十二歳）

前厄	24歳 平成4年生	41歳 昭和50年生	60歳 昭和31年生
本厄	25歳 平成3年生	42歳 昭和49年生	61歳 昭和30年生
後厄	26歳 平成2年生	43歳 昭和48年生	62歳 昭和29年生

女の厄年（大厄は三十三歳）

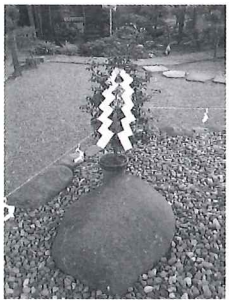
前厄	18歳 平成10年生	32歳 昭和59年生	36歳 昭和55年生
本厄	19歳 平成9年生	33歳 昭和58年生	37歳 昭和54年生
後厄	20歳 平成8年生	34歳 昭和57年生	38歳 昭和53年生

数え年とは、満年令に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

運勢学でみる厄年の大厄は衰退期の衰退運に回座する年を言います。男性は昭和四十九年生、女性は昭和五十八年生の方です。男性の昭和三十年生、平成三年生は生気興隆の為に生気が増大するので注意の厄。女性の昭和五十四年生・平成九年生は八方ふさがりの注意の厄です。星除は八白土星生、三碧木星生、六白金星生、一白水星生の方は星除祈願をお受け下さい。

寄付者

☆稲積睦発足三十年記念事業
初代宮司歌碑周り・みまもり石周り・古札入れ周り整備事業
稲積睦会員各位
齋藤建設㈱様
㈲石坂石材様
河野造園様



☆鳥居・玉垣洗浄工事
㈱やおき　藤本恭司様

☆玉砂利奉納
齋藤建設㈱様

年中行事

節分祭

今年も節分祭がにぎやかに、斎行されました。

節分は、立春・立夏・立秋・立冬の前日のことですが、江戸時代以後、立春の前日を指す事が多くなってきました。

年男・年女・厄年の方々が社殿にてお祓いを受けた後、「福は内・鬼は外」と声を出しながら福豆を撒いていただき、今年の福を受けようと多数の方々が、詣でていらっしゃいました。

又、今年は鬼の役をしていただいた稲積神社「常若会」の方の奮闘で、豆撒を待っていた幼い子達の中には、泣き出す子供もいましたが、今年の福のお菓子などをもらうと笑顔で楽しそうに帰っていく後姿を見ると、このような日本の伝統行事を、次の世代につなげていかなければと、改めて思います。

針供養祭

凍付く寒さの二月八日、当神社に祀る針供養塔の御前で山梨県和服裁縫組合、日本和裁士会山梨支部の方々が参列し針供養祭が斎行されました。

針供養祭は本年で五十年目を迎え、昭和四十五年十月八日には針供養塔も建立されました。

昔の女性にとり生活に欠かせない道具である針を休ませ、日頃お世話になっている針に感謝し、供養と裁縫の上達も祈る神事で、針に対し最後は柔らかい所で休んでくださいとの意も込め柔らかい蒟蒻に刺して針を供養します。また、折れた針を持参し針塚にも納めます。

和裁のみならず針を手にする事、針のような小さな物にも感謝をし、物を大切にする心は日本の文化です。事始めの二月八日、寒い中でのお祭ですが、針への感謝と上達を願い針供養祭にお参りください。

稲積神社崇敬会　靖國神社参拝・銀座散策旅行

◆旅行実施予定日：平成27年６月21日（日）
◆募 集 人 員：80名（最少催行人員60名）定員になり次第〆切り
◆旅 行 代 金：おひとり8,500円

月日曜	行程	食事
6／21（日）	甲府各地 ═══《中央道～首都高》═══ 靖國神社（正式参拝）═══ 歩行者天国の銀座散策（昼食） ……自由散策 ═══ 甲府各地（着）	朝 ー 昼 ○ 夕 ー

稲積神社甲府伊勢講第50回記念　伊勢神宮早朝参拝と京都散策の旅

◆旅行期日：平成27年10月18日（日）～20日（火）２泊３日
◆旅行代金：60,000円
◆募集人員：120名（最少催行80名）
◆利用予定ホテル：【鳥羽】戸田家（10/18）【湯の花温泉】おもてなしの宿渓山閣（10/19）

月日曜	行程	食事
10／18（日）	甲府各地（6：00頃）═══ 伊勢神宮豊受大神宮（御垣内参拝・御神楽奉納）　新穀感謝祭参列 ═══ ご昼食（新穀感謝祭弁当 岩戸屋）・おかげ横丁散策 ═══ 鳥羽・戸田家（泊）（16：30頃）	朝 ー 昼 ○ 夕 ○
10／19（月）	鳥羽・戸田家（6：00頃）═══ 伊勢神宮皇大神宮早朝参拝（6：30～8：00）……徒歩……ご朝食（岩戸屋）═══ 名阪関ドライブイン（お買物・休憩） ═══ ご昼食（37階スカイランチブッフェ 大津プリンス）═══ 平等院鳳凰堂（世界遺産）（約60年ぶりの大規模修理後）═══ 湯の花温泉（泊）（16：30頃）	朝 ○ 昼 ○ 夕 ○
10／20（火）	湯の花温泉（8：45頃）═══ 嵯峨野観光鉄道トロッコ列車……徒歩……京都・嵐山散策 ═══ ═══ ご昼食（京都市内・京名物「いもぼう」（いもぼう平野家本家））═══ 京都東IC ═══ 甲府昭和IC ═══ 甲府各地（19：00頃）	朝 ○ 昼 ○ 夕 ー

稲積睦創立三十周年を迎えて

稲積睦会長　長潟英規

平成二十七年三月二十二日稲積神社神殿に於いて稲積睦創立三十周年の報告祭、参集殿にて祝賀会を挙行致しました。ご多忙の中多数の皆様のご臨席を賜り心より感謝と御礼を申し上げます。

初代清水久会長の後を引き継ぎ二代目会長として二十五年、創立三十周年の節目を迎える事が出来ました。感無量です。また、三十周年記念事業として稲積神社境内の整備事業を会員の手作業で行いました。

私達は、稲積神社神輿会稲積睦として正の木祭りの神輿渡御が活動の中心です。発足から二十年くらいは、浅草三社祭、神田祭、羽田祭、伊豆大島椿祭等色々な祭りへ担ぎにも行きました。現在は山梨の祭りに軸足を置き「山梨を元気に！」という思いで活動しています。

当初、神社の宮神輿は無く、湯田第一・第二自治会の神輿を町内のご理解を頂き、お借りして担がせて頂いておりました。

やはり、いつかは神社の宮神輿を担ぎたいという思いはありました。そして、長い間お借り頂いた湯田第一・第二自治会様のご厚情と、私たちが途切れることなく神輿渡御を継続して来た事の思いが伝わり、平成二十一年に宮内庁御用達浅草宮本卯之助商店から、念願の宮神輿を新調することが出来ました。これも、稲積神社関係者、地域町内、また、各神輿会の皆様など大勢の方々のご理解とご協力を賜わったお蔭と思います。

稲積神社例大祭において宮神輿に、お御霊を遷御し町内を巡幸し、八か所の御旅所で休憩を入れ、宮入して神輿から再びお御霊を還御するまで滞り無く事を運ぶ事が最も重要な役目です。お蔭様でこれまで三十年間大きな問題も無く巡幸出来ました。そこには、常に初心を忘れず、神社神道を少しずつ理解してきた会員全員の意識の共有と努力といえましょう。

また、毎年五月三日の正の木祭りの神輿渡御には、ゴールデンウイークにもかかわらず、今では、十七団体二百名以上もの大勢の神輿会の皆様がご協力を頂き大変感謝しております。

現在会員は二十七名。内、元気な女性会員一名独身。若い世代の会員も入って来ています。私達は、伝統文化の継承と会員相互の融和を図り、神社の発展と微力ながら地域の活性化に責任と誇りを以てこれからも努めていきたいと思っています。

私事ですが、会長としての器では無い私を会員皆が心で支えてくれ、付いて来てくれたからこそ二十五年間続けて来る事が出来ました。物故の会員四名も含め、この最高の仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。

正の木祭りの神輿渡御が無事終わった後、神社の裏で会員皆輪になって座り、それからが私達の直会です。そこで酌み交わすお酒が私には何よりも一番おいしく格別です。心地良い疲れと、達成感だと思います。

これから四十年、五十年と繋げていく事の方が大変かもしれません。近い将来世代を交代し三代目会長が、新しい息吹を吹き込み、この重責を担って頂く事を期待しているところであります。

まだまだ未熟な会です。何卒これからも、皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い致します。